

トヨタ車体、ダカールラリー2014でワン・ツーフィニッシュ！

## 市販車部門を完全制覇し、王座奪還を果たす！

トヨタ車体株式会社（本社：刈谷市一里山町 取締役社長 網岡卓二<sup>あみおかたくじ</sup> 以下、トヨタ車体）は、2014年1月4日から1月18日に開催された「ダカールラリー2014 アルゼンチン・ボリビア・チリ」に、「トヨタランドクルーザー200」をベースに開発・製作したダカールラリー仕様車で参戦。ガソリン車・ディーゼル車を含めた市販車部門において、すべてのステージで首位を独占。その結果、1号車が優勝、2号車も準優勝となり、3年ぶりの王座奪還、通算14回目の市販車部門優勝を果たすとともに、2006年大会より8年ぶりとなるワン・ツーフィニッシュを果たしました。

	ドライバー/ナビゲーター	市販車部門*1 順位	ディーゼルクラス順位	総合順位
1号車	みつはし じゅん / アラン・ゲネック	1位	1位	21位
2号車	ニコラ・ジボン / 三浦 昂*2	2位	2位	24位

\*1 市販車部門（ガソリンクラスとディーゼルクラスをあわせたカテゴリー）

\*2 トヨタ車体従業員（総務部広報室）ナビゲーター

### 【大会概要】

2009年大会よりアフリカ大陸から南米大陸に舞台を移して5回目の開催。今大会の競技区間は、2013年大会と比べて約1,200kmも延長された南米開催史上最長の約5,500kmに及び、最高レベルの走破性、耐久性が求められる挑戦となりました。前半のアルゼンチンのコースは、6,000m級の高山が多いアンデス山脈の山岳地帯が舞台でした。砂利や石、岩など凹凸の激しい硬い路面を高いスピードを維持しながら走行することが求められ、トヨタランドクルーザー200は、その強靱かつ柔軟な足まわりと機動性により、この難コースをものともせず走り抜けました。後半のチリのコースは、世界で最も乾燥した砂漠といわれるアタカマ砂漠を舞台とし、細かな砂が延々と続く砂丘群を持ち前のパワーと高い走破性で突き進みました。気候や環境の変化により刻々と異なった姿をみせる過酷なコースでありましたが、トヨタランドクルーザー200の高い安全性、信頼性、走破性とドライバー・ナビゲーターをはじめとするチーム力により、全13ステージにおいて、すべて首位を勝ち取り、他の競技車両に対し圧倒的な差をつけ、王座奪還を果たしました。

### 【バイオディーゼル燃料（以下、BDF\*3）での参戦】

今大会においても、前回大会に引き続き2台のトヨタランドクルーザー200にBDFを100%使用。NRJ部門（環境に配慮した代替エネルギーを使用したクルマの部門）において、4年連続の優勝を果たしました。

\*3 BDFについて…当社の活動に賛同して下さった近隣地域の方々、小学生から大学生の皆様、TLCスポンサーならびに従業員から回収した廃てんぷら油を原料とし、豊田通商株式会社をはじめとする多くの企業の協力で精製した燃料

### 【ラリーで得られた成果を市販車へ】

世界一過酷なコースを走行することで得られたデータを車両開発にしっかりとフィードバックし、トヨタランドクルーザー200の持つ走破性や安全性、信頼性という価値をより一層高めて、世界中のお客様に必要とされ、愛されるクルマをめざし続けます。

## 【コメント】

## ◆トヨタ車体 取締役社長 網岡 卓二

3年ぶりとなる市販車部門王座奪還を達成でき、非常にうれしく思っています。

このような結果を出すことができたのは、良いクルマに加え、良いドライバー・良いナビゲーター・良いメカニックが一生懸命取り組んでくれたからであり、一つでも、一人でも、欠けていたとすれば、この結果を出すことはできなかったと思います。

今回の市販車部門優勝により、当社で製造する「トヨタランドクルーザー200」の走破性、安全性、信頼性を世界にアピールできました。今後もラリーで得られた成果をクルマづくりに生かしながら、世界中のお客様に喜んで頂けるクルマづくりに一層励んで参ります。

応援頂いた皆様、ならびにスポンサーや関係者の皆様の温かいご支援にあらためて御礼申し上げます。ご声援ありがとうございました。

## (チームメンバーのコメント)

## ◆チーム代表 林 正敏(トヨタ車体 執行役員)

2年連続、市販車部門で負けを喫し、非常に悔しい思いをしてきました。その悔しさをバネに、もう一度徹底的に勝ちにこだわったクルマづくり、チームづくりをしてきました。そうした背景もあり、今回王座奪還できたことは、この上ない喜びです。今後は、取り戻した王座を再び手放すことがないように、連覇し続けられるチームづくりをしていきたいと思っています。

## ◆チーム監督 森 達人(トヨタ車体 総務部広報室)

王座を取り戻すことができ、本当にうれしく思う反面、安堵の思いもあります。今回、優勝を達成できたのは、2度の2位で味わった悔しさを胸にやってきたトレーニングの成果を十分に発揮することができた結果だと思っています。また、スポンサーやファンの皆様の声援は南米まで届いており、非常に励まされました。この結果に満足することなく、今後も勝ち続けていけるように努力していきたいと思っています。ご声援ありがとうございました。

## ◆市販車部門優勝 1号車ドライバー 三橋 淳

2012、2013年大会ともに良い結果を出すことができなかった為、今大会では今まで以上に市販車部門優勝にこだわり、徹底的に堅実な走りをしてきました。その結果、自身としては4回目となる市販車部門優勝を達成することができ、この1年間、チームメンバーとやってきた準備が間違っていなかったことを証明できました。本当にうれしく思っています。また、トヨタランドクルーザー200の素晴らしさを世界に証明できたことを誇りに感じます。皆様のご声援に感謝しています。

## ◆市販車部門優勝 1号車ナビゲーター アラン・ゲネック

3年ぶりの王座奪還をとともうれしく思うと共に、大きな達成感を感じています。このチームに入ってこれで4年となりますが、年々増していくチーム・クルマへの信頼から、今大会は本当に安心してラリーに集中することができました。もちろん順調に進むことばかりではありませんでしたが、ひとつずつ困難を乗り越えられたのも、チームのサポートと多くの方々からのご声援による後押しがあったからこそだと感じています。ありがとうございました。



市販車部門優勝を達成した TLC1号車(三橋/ゲネック組)



ゴールポディウムで優勝を喜ぶ TLC

## 【参加台数と定義】

部門 (部門の定義)	クラス	参加 台数	完走 台数	完走率
市販車 量産車にローバー・大容量燃料タンクなどの「安全に走る」ための装備を追加した車。主要部品の交換が禁止されている	ガソリン	1	1	100%
	ディーゼル	12	8	67%
		13	9	69%
改造車 早く走ることを目的に改造を施した車。量産車を改造したものから、ボデーからエンジンまで全ての部品を専用に作ったプロトタイプまで含む		134	53	40%
4 輪		147	62	42%
2 輪 (クアッド含む)		214	93	43%
カミオン (トラック)		70	50	71%
合 計		431	205	48%

## 【過去の成績】

開催年	1995-2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
使用 車両	ランドクルーザー80 (1995-1998) ランドクルーザー100 (1999-2004)	ランドクルーザー100				ランドクルーザー200					
成績	市販車ディーゼルクラス優勝7回	優勝 *2	優勝 *2	優勝 *2	大会 中止	優勝 *2	優勝 *2	優勝 *2	2位	2位	優勝
備考	アラコとして参戦 *1	2005 大会よりトヨタ車体として参戦									

\*1 2004年10月に車両部門がトヨタ車体と事業統合

\*2 ガソリンクラスを含む市販車部門で6連覇達成

## 【バイオディーゼル燃料(BDF)での参戦経緯】

開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
参戦車両	ランドクルーザー100	ランドクルーザー200						
BDF 使用台数 (使用台数/出場台数)	1/3 台	大会 中止	1/2 台	2/2 台	2/2 台	2/2 台	2/2 台	2/2 台
BDF 混合比率	20%		20%	20%	100% *1	100%	100%	100%

\*1 2011 大会は一部区間のみ軽油で走行